



Vol.4 インフルエンザ Q&A

Q1.インフルエンザの症状は？

インフルエンザの診断基準は以下の通りです。

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下の4つの基準をすべて満たすもの

1. 突然の発症
2. 38℃を超える発熱
3. 上気道炎症状
4. 全身倦怠感等の全身症状

インフルエンザの流行期に上記4つの基準をすべて満たしていたら、臨床的にインフルエンザと診断されます。インフルエンザワクチン接種を受けた方や高齢者では症状が非典型的な場合があるので注意が必要です。

インフルエンザが強く疑われるが、4つの基準のうち満たしていない項目が1つ以上ある場合に迅速検査を行います。迅速検査で陽性とであればインフルエンザと診断されます。

Q2.インフルエンザの迅速検査とは？

鼻の奥を細い綿棒でこすり検査します。

10-15分でA型陽性あるいはB型陽性あるいはいずれも陰性かが判定できます。

症状出現後 12 時間以内はインフルエンザであっても検査で陽性となる確率が低いので結果の解釈には注意が必要です。

最近、検査での診断にこだわるあまり、1回目で陰性になった場合翌日に来院してもらい再度検査を行う例をよくみかけますが、本来インフルエンザの診断はQ1のように症状による診断がメインです。基準をすべて満たしていれば検査をしなくともインフルエンザとして対処することが望ましいのです。迅速検査が行われるようになったのはここ数年であり、それ以前はすべて症状診断で治療を行っていました。



Q3.インフルエンザの治療薬は？

	タミフル	リレンザ	イナビル
用法・用量	1回1錠1日2回5日間	1回2ブリスター 1日2回5日間	2個を単回吸入
10歳以上の未成年	原則投与しない	要注意	要注意
妊婦	有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ		
授乳婦	授乳を避ける		
喘息・COPD患者	問題なし	薬剤吸入後に呼吸状態悪化の可能性あり	
			
薬価 (円)	3090	3360	4160

上記の抗インフルエンザ薬以外では漢方の**麻黄湯**が効果的です。10歳以上の未成年では抗インフルエンザ薬が投与できないので特に有効です。

Q4.誰が治療を受けるべきか？

日本以外の諸外国においては、健康な成人の場合上記の抗ウイルス薬の適応はないとしています。以下の高リスク群の人が治療の適応と考えられています。

- ・ 気管支喘息
- ・ COPD等の慢性の肺疾患
- ・ 糖尿病等内分泌疾患
- ・ 心疾患
- ・ 腎臓病
- ・ 肝臓病
- ・ 極度の肥満
- ・ 免疫不全(HIV,AIDS,癌、ステロイド内服中)
- ・ 65歳以上
- ・ 5歳未満
- ・ 妊婦および出産後2週間以内

もとき内科クリニック

住所：藤沢市辻堂神台 1-3-39

TEL:0466-47-8216

文：院長 大江 元樹